

保育北九州

Happy New Year!

令和6年1月1日
発行 (一社)北九州市保育所連盟
〒805-0019
北九州市八幡東区中央2丁目1-1
(レインボープラザ5F)
電話(093)661-2153番
発行人 山 本 文 雄
編集人 西 敏 昭

2024 214

「ゆきだるま」

(2歳児の作品)



私の楽しみは、パンフレットを眺めながら、旅行会社のツアーに便乗して旅をすることです。なかなか時期を決めるタイミングが難しく、園行事がひと段落するころと気候とを見計い、やっとの思いで決断しました。旅行先は紅葉に期待して飛騨・高山・黒部溪谷辺りを選びました。車窓から眺めると遥か遠方には、上高地の峰々、そして眼下にはのどかな田園風景が視野に入ってきました。十一月の今、稲の収穫時期はとくに過ぎていくはずの田んぼは、一度刈り取った後の切り株に黄金色の稲穂が頭を垂れ二期作にも似た状況が起きているようでした。夕日も傾いてきたころ、ふと小学校一年生だった頃の私と父との会話の一シーンを思い出していました。「父ちゃんは秋と春のどっちがいい？」と父に聞いかけ、「私は秋がいい」と言葉を返したところ父は、「春がいい。秋は寂しそうだから」という会話の記憶が甦ってきました。気難しい父との会話は殆どなかった自分には、会話できたことが大変嬉しかった為今でもそのことが鮮明に甦ってきたのかもしれない。

り、かろうじて残っている葉は黄色、褐色が殆んどで期待外れに思えました。もう少し早い時期を選べば、鮮明な紅葉の景色に出会えたのかも、と少々後悔も……。しかし、落ち葉となった晩秋の木立並木は、私を郷愁の気分と懐かしい思い出に浸らせてくれました。ツアー同行のお客様の中に、年齢は私より多分年配であると思われる小柄なご婦人が気になっていました。そのご婦人は、黒四ダムでの二二〇段の階段を休み休み登っておられましたので、ゴールまで大丈夫かなと思いきや私の予想は大きく外れたのです。「大変だったけど何とか登りきりました。息を切らしながらも誇らしげな表情。むしろ私の方が息をハーハーさせながら、やっとの思いで登り切ったのです。その女性の年齢は、八三歳と聞いて驚きました。おまけに講演もされているとのこと。言葉遣いも丁寧で背筋のピンと伸びた立ち姿といい、洋服のセンスも髪型も素敵。手本にしたい女性に遭遇しました。今回の旅行は、忘れかけていた発想のトキメキや心と体の新陳代謝も活発になったような気分になさしてくれました。次はどこへ行くかな、おひとり様の旅。

てんらいじほいくえん 室之園 郁代

雑感 小さな幸せ

「たのしいお正月」

〈提供 小倉南支部〉

(5歳児の作品)

表紙	1
新年挨拶	2～3
第7回 九州保育三団体研究大会	4～5
第61回 北九州市保育研修大会	6～7
雑感・編集後記	8

編集後記 — だるまさんも修行中。 —

だるまさんと言えば七転八起、縁起物の赤い張子の置物や、子どもたちにとってはにらめっこや絵本のシリーズなどを思い起こします。

だるまさんの起源は、お釈迦様から続く仏教の教えをインドから中国へ伝えた禅僧、達磨大師であると言われており、坐禅をしている手も足も引っ込んだ、顔だけの象徴的な姿が現在のだるまさんになったと言うことです。

禅の真髓を求めるべく、おさとの後も壁に向かって九年間坐禅を続けただるまさん。我々も資格を取ってしまえば終

わりではなく、その後の日々の現場での関わりを研鑽修養・修行?の場として生かしていくことが大切なのは言うまでもありません。

ある日、これまで当然と思われていたことが突然「火ダルマ」になることのないように、刻々と変化していく社会の変化を敏感に感じ取りながら、だれもが笑顔になれる「こどもまんなか社会」をみんなで作っていきましょう。

「保育北九州」編集委員 伊賀良 昌宏

新年のご挨拶

一般社団法人北九州市保育所連盟

会長 山本文雄



あけましておめでとうございます。
会員の皆様方には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、連盟における様々な事業におきまして、皆様方の多大なお力をいただきましたこと心よりお礼申し上げます。本年も変わらぬご協力のほどお願い申し上げます。

さて、少子高齢化により人口減少に歯止めがかからない現状に、政府は社会全体で子どもの成長を後押しするため「こども家庭庁」を昨年4月に発足させました。ご存知のように、子どもの最善の利益を第一として、「こどもまんなか社会の実現」を掲げています。それに伴い、これからの保育はもつともっと多様化

していくことでしょう。6月に政府が掲げた「こども未来戦略方針」においては、「こども誰でも通園制度」が発表されました。現在は令和6年度の本格的実施に向けてモデル事業の検証がなされています。事業を実施していく中で、保護者の思い、保育現場の願いなどがどう反映されていくのか、私たちは国の政策をしっかりと見ていかねばなりません。

また地域子育て支援機関として、「かかりつけ相談機関」の必要性も求められています。常日頃から、地域とかかわり寄り添ってきた保育所、保育園、認定こども園等ですが、今後ますます、私たちに専門性が求められる、人材の育成が重要となっていくことでしょう。

私たちの北九州市では、12月から、第二子保育料無償化がはじまりました。生計を一にする子どもを年齢に関係なく、第一子とすることで保護者等にとっては、金銭的にも大きな軽減になったことと思います。本連盟は、時代の変化や動向を受け止め、常に子どもたちの視点に立ち、子どもたちの最善の利益のため、行政、関係機関等と一緒に歩いていきたいと思います。

余談ですが、令和6年は辰年です。辰年の過去の出来事では、東京オリンピック（昭和39年）の開催、それに伴う東海道新幹線の開通、瀬戸大橋（昭和63年）や青函トンネル（昭和63年）など大型建造物の竣工、二千円札発行（平成12年）、東京スカイツリー開業（平成24年）などの明るい話題がありました。また、平成7年から始まった、その年の世相を表す漢字では、辰年は二度ともに「金」でした。さて、今年はどんな一年になるのでしょうか。

子どもは世界の宝です。私たちの

国はもちろんのこと、すべての国の子どもたちを大人が守っていかなければなりません。一日でも早く、世界中の子どもたちが元気に、笑顔で暮らせる社会になって欲しいものです。龍が空に昇って、大きな虹を描くように、世界中の子どもたちにかかることを願います。本年もどうぞよろしくお願い致します。



会長

山本文雄

顧問

西村 賢了

酒井 光義

岡村 信久

副会長

北野 久美

林田 猛利

伊賀良 昌宏

保育士会副会長

黒田 玲子

重國 香

新山 リエ

本年も宜しく
お願いいたします



若松支部
支部長 橘原 義晃
保育士会長 有田 美加

八幡東支部

支部長 岡本 エミ子
保育士会長 重國 香

八幡西支部

支部長 山本 文雄
保育士会長 柏木 幸子

戸畑支部

支部長 平田 敬子
保育士会長 布住 好江

第7回九州保育三団体研究大会 福岡市大会

【一日目】

オープニング・基調講演

令和5年8月31日(木)・9月1日(金)福岡市のアクロス福岡シンフォニーホールにて、「すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現」を大会主題とし、第7回九州保育三団体研究大会が行われました。



の概要の中では、こどもや子育て当事者等の意見を聴取して反映させるために必要な措置を講じていることなどの説明がありました。就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針(仮称)については、すべてのこどもが、その権

オープニングでは、「明るく・楽しく・元氣よく、今できる最高の演奏、演技を！」をスローガンに掲げている精華女子高等学校吹奏楽部約60名による素晴らしい演技・演奏がありました。

基調講演では、こども家庭庁保育政策課 公定価格担当室長 齊藤克也氏による「保育行政の動向と課題について」のお話がありました。こども家庭庁設立の経緯や概要の説明、こども基本法



利が守られ将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目的としていること。令和5年度の保育関係予算の中には、保育士の負担軽減、保育の受け皿整備、保育人材確保のための総合的な対策、多様な保育の充実、認可外保育施設の質の確保、向上、子ども・子育て支援新制度の推進、認定こども園向け補助金の一元化について予算が組み込まれていることなどが説明されました。

また保育士、保育教諭等の処遇改善・人材確保について現在の状況や対策、今後さらなる改善を検討しているとの説明がありました。

第34回九州ブロック保育士会セミナー

テーマ

妊娠期からつながる乳幼児ケアの重要性
保育現場がこどもと家族の「安心・安全の基地」であるために

講師 鎌倉女子大学 児童学部児童学科

准教授 榊原 久子 氏

セミナーの開会にあたり九州社会福祉協議会連合会保育協議会会長佐藤成己氏より「こどもまんなか社会」において質の向上、処遇改善、配置基準の見直しなどを通して安心安全を保障し、子どもを守る社会の実現のため九州の保育力を発揮しようという挨拶がありました。続いて全国保育士会副会長北野久美氏の全国保育士会の成り立ちや保育を取り巻く制度動向等の確認と令和5年度の重点事業などの基調報告を受けました。

講演は「子どもの安心・安全の基地とは」をテーマに愛着の発達段階と分類について多くの資料を基に行われました。保育者は個人の感情や心情で子どもたちに関わらない、自分の持つアタッチメントスタイルが強く影響してしまう、一貫した働きかけが子どもたちの安定した行動につながる、応答性の高さが保育の質を高めるので表情や視線、しぐさ、姿勢に言葉を添えるなど印象に残りました。今ま

での自分自身の保育を振り返る良い機会をいただきました。

また、胎児期から3歳までのケアの質がヒトの成長を左右するとして具体的な脳の発達を示されました。働く女性のキャリア保障やキャリア喪失と受胎リミットの葛藤に伴う産後の孤立化を防ぐため、負の連鎖を断ち切る「伴走型支援」へ市区町村のマネジメント強化が求められていることも理解できました。

安心したい、満たされたい、関わってみたい、遊びたい、認められたいという生涯にわたる人格形成の基礎作りに携わっていることを改めて自覚できたセミナーでした。

【二日目】

分科会

第6分科会 子育て文化を育む

「家庭や地域との連携による食育の推進」

意見発表 北九州市 日豊保育園

主任保育士 岩本 ひさみ 氏

分科会では北九州市と佐賀県、長崎県の意見発表後にグループ討議がありました。

日豊保育園からは新型コロナウイルスの感染拡大で保護者への情報提供や接点が減少してしまったのでは

ないか、園での食事風景をどのように伝えたいか、食への興味は薄れていないかなどの課題に取り組んだ1年間が発表されました。事前アンケートから朝食を食べたがらない、野菜が嫌い、忙しくて朝食を摂る時間がないなどあったため、栽培やクッキング計画を新たに立て直し、職員も簡単レシピや食育だよりのグループに分かれて活動を始めました。1年後、保護者からレ



シピが分かりやすかったので作ってみたい、試食会があったなど園の取り組みへの理解と、食への関心に深まりました。

ほかの発表事例も食育は毎日の積み重ねと考えた計画づくりや食べない悩みを抱える保護者に丁寧なアドバイスをしたり、食材カードを毎朝子どもたちと張り出したりなど各々工夫がありました。また、ジャガイモの種イモ作りからポテトサラダ作りまでの実践や保育士と給食調理員との綿密な情報交換なども参考になりました。

グループ討議では地域との連携について意見を交わしました。それぞれ、園の環境が違い地域差もあります

が、子どもたちの経験値を広げる働きかけを大切にしようという気持ちが一致しました。コロナ禍前の状況を知らない職員も多かった今、園内での様々な関わりも課題になっています。発表事例とともにお互いの実践を直接聞くことができて充実した時間でした。

記念講演

2日目の記念講演では、テレビ・ラジオでお馴染みの株式会社「愛しとーと」代表取締役兼CEO 岩本初恵氏による講演がありました。「ポジティブ転換のコツ」と題し、お父様より学んだことやご自身の人生経験を基に、様々なお話をいただきました。私たち大人は、目に見える物を信じ、世間体・人の目・人から言われた事・世間の事を気にして不平不満を口に、世の中の幸せを逃している。1回限りの人生なので、私が幸せになれたように保育士の皆さんにも幸せに、豊かになってほしい。食生活を良くする事、体を動かす事、自分の心の中の考え方や受け取り方を変える事。この三位一体が人の幸せを作る。幸せになるためには、



に汗水流して働いている人たちこそ処遇が改善されていくべきである。子どもの未来の為の仕事であることに誇りを持ち、生きがいを持って仕事をしてほしい、とエールを頂きました。

およろこび

瑞宝雙光章 (令和5年春)

認定こども園清心保育園

前園長 境目 操

瑞宝單光章 (令和5年秋)

認定こども園長浜保育園

教頭 岡村 うめ子

厚生労働大臣表彰(社会福祉功労者)

認定こども園あけぼの愛育保育園

園長 北野 久美

内閣府特命担当大臣表彰(保育事業従事者)

認定こども園本城西保育園

園長 橋原 智司

認定こども園本城西保育園

調理員 橋原 和恵

鳴水保育園 園長 堤 美雪

全国私立保育連盟 保育功労賞

認定こども園キンダーポート保育園

園長 林田 猛利

認定こども園引野保育園

園長 坂井 浩司

全国保育協議会 会長表彰

恒見保育園 園長 吉田 久美子

千防保育所 所長 堀 千鶴代

折尾保育所 所長 原 貴代美

西村法昭顕彰会表彰

藤田保育園 園長 後根 泰定

第61回 北九州市保育研修大会

第一日目 施設長特別研修会

行政説明

「北九州市の保育行政について」

北九州市子ども家庭局 保育課
保育指導担当課長 河崎 幸子

保育を取り巻く国の動向に接してのことも基本法の概要説明から始まり、こども家庭庁関連予算の5つの基本姿勢とこども大綱の策定及び施策のスケジュールが示されました。

次に、全国と本市の少子高齢化の現状に基づいて出生数と人口構成の比較による本市の少子高齢化が進んでいる状況報告がありました。また、北九州市の子育て支援の取組みとして元気発進！子どもプランの基本理念と本市の子育て支援の魅力である6つのトピックの紹介がなされ、最後に障害のある子どもや発達の子になる子どもの支援・相談等の取組みとヤングケアラーへの対応のお話で締めくくられました。

講演

「保育の職場環境づくりと施設長の役割」

講師
社会保険労務士法人ワークイノベーション
代表 菊地 加奈子氏



職場に保育という業務の性質と職場のチームワークの重要性を周知するとともにハラスメントに対する理解を深める研修を

わたるとも言われていました。職員に保育という業務の性質と職場のチームワークの重要性を周知するとともにハラスメントに対する理解を深める研修を

社会保険労務士であると共に保育園・認定こども園を運営しておられる菊地氏より、保育園の労務管理と経営について講演がありました。

いま、社会は人材を「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出し、法人の価値創造につなげる「人的資本経営」にシフトしており、保育園経営に関して大切な視点になっていると教えていただきました。

職員を大切にしている経営の基本はコンプライアンスを遵守することで、また、職員が働きやすい環境を作ること、保育の質は高まっていくということでした。

施設長として法律や労務管理についての知識を持つことやリーダー層の職員にも労務管理の教育をすることも大切となります。時に、職員のために行ったことが、法律違反や労務リスクを招く事態となり、労働基準監督署による是正勧告や訴訟、保育の質の低下や離職など影響が多岐にわたるとも言われていました。

保育士が地域の子ども子育て家庭支援の中核的役割を担う立場になり、他職種・他機関との連携を含めた取り組みを行っていく必要があると報告されました。

最後に、保育者も子どもも保護者もワクワク生き生きした保育の展開が理想なので、その為にも、質を上げ、学び続けていきたいと思います。



実践発表

認定こども園春の町保育園
保育教諭 米田 稔子

3歳4ヶ月で転園してきたT君。保護者から前園での状況や専門機関との関係を詳しく聞き、遊び・食事・排泄等個別の関わりに配慮しながら、悩みを抱えて

育児している保護者の気持ちにも共感することに努めた。T君の事例・特性を職員間で共有し、支援した結果を次に繋げ、安心して過ごせる環境作りを大切に、今後も寄り添っていきたい。

日豊保育園
主任保育士 岩本 ひさみ

園が抱える食事の問題点を基に、『食事の楽しさ・大切さを知る』というテーマで、3つのグループ「栽培・クッキング」「簡単料理・離乳食 レシピ」「食育だより」を編成し、子どもたちが食に興味を持てるよう、実践や保護者への働きかけを行っていった。活動を通して、目と目を合わせた愛情のある声掛けの重要性、できあがった料理をさらにおいしくするのは保育士の言葉掛けであること、を再認識した。

認定こども園ひびきの保育園
主幹保育教諭 天野 千恵

開園時より、市民センターでのおやこあそび等を通して地域活動支援を行ってきた。一方で、子育て世帯の、人や社会とのつながりの希薄化による不安や悩みにも直面した。それをうけて、地域の特色を踏まえた活動を計画し、認定こども園の専門性を活かした地域子育て支援の実践を行っていた。地域の役割として必要な事、地域の保護者から何を求められているのかを考え、支援力・意識の向上に努めていった。

行うことや自己評価ガイドラインと人事評価が関わり合っていることを意識して、評価をフィードバックし、キャリアパスを整備することも施設長の役割と話されました。更に、子ども未来戦略方針では、育児休業を夫婦が交代して取得できるようになり、親の働き方が変化するため、すべての子どもの豊かな育ちを支えるという保育士の役割はより重要となります。

保育を取り巻く環境が大きく変化する中、自分たちだけの視点で物考えずに保育を必要とする人たちを巻き込んで働き方を変えていって欲しいと締めくくられました。

第二日目 全体会

基調報告及び活動報告

(一社) 北九州市保育所連盟

会長 山本文雄

ご挨拶の中で、今年度6月の総会をもって前会長 酒井光義先生から引き継ぎ、会長に就任し、この第61回北九州市保育研修大会より4年ぶりに通常開催に戻った事を説明されました。

また、4月よりこども家庭庁が発足し、こども基本法が施行され、行政と共にもこどもまんなか社会の実現に邁進して行く事を報告されました。

最後に初代会長 故西村法昭先生の「保育は人なり、先生方の笑顔と言葉かけが子どもたちと保護者の方々の大きな

な支えになるのですよ」という言葉で締めくくられました。

(公社) 北九州市私立保育連盟

会長 山本博文

まず、今年度6月の総会をもって前会長 岡村 信久先生より引き継ぎ、会長に就任し、今研修大会より(公社)北九州市私立保育連盟が共催する運びになった事を話されました。

そして、当連盟の活動報告として総務委員会、予算対策委員会、調査・研究委員会、広報委員会それぞれの委員会の報告をされました。また、全国私立保育連盟の活動報告としては子ども子育て支援等分科会に参加して、保育士配置基準の改正、定員区分の細分化、過疎地の安定運営、保育士の処遇改善の説明がありました。

最後に令和6年4月から実施される「こども誰でも通園制度」について解説され、行政としっかり制度設計をしていく事を約束されました。

北九州市保育士会

会長 北野 久美

全国保育士会について、成り立ちから主な取り組みについて説明がありました。その中で、キャリアアップ研修の構築、主任保育士の専任化など、保育士の専門性の向上に様々な活動を行っている話がありました。

また、令和5年度の事業計画で、今後、

であると学びました。

絵本では、「カラーモンスターきもちはどうなる？」を題材に、人の様々な気持ちを一つ一つ色に置き換えて整理していくことや、自分をどう大切にしているか等について考える機会をいただきました。

最後は、「歌声喫茶」と称した会場全員での大合唱で大いに盛り上がりました。歌あり、笑いありのとても楽しい時間で心が癒され元気になりました。明日からの保育が100倍楽しくなる研修となりました。

